

にりかわ 濁川ってどんな川？ にいごう 新井郷川のあゆみ

新井郷川は福島潟を水源とし、北区内だけを通って、日本海に注いでいる全長約14kmの1級河川です。



河口付近のニセアカシアの並木。
5月下旬の花の時期は甘い香りが漂う。

新井郷川は、310年以上も前の1697(元禄10)年の絵図にも描かれています。また1733(享保18)年の絵図には「新井川」、1818(文政元)年の絵図には「仁井郷川」と川の名前が書かれています。

現在のように改修される以前の川は、流れが濁っていたため、下流付近では新井郷川のことを俗に「濁川」とも呼んでいたようです。

■ 砂丘を掘って日本海とつなぐ！

松浜地区を縦断して日本海へ流れ出る現在の分水路は、1920(大正9)年～1934(昭和9)年に行われた大改修工事によって、砂丘を掘って造られた水路です。

それ以前は、阿賀野川と合流していました。改修前の流れが、三軒屋町～

新元島町を流れる現在の派川新井郷川分水路です。

この頃の新井郷川は、大雨が降ると阿賀野川へ水が流れず、逆に阿賀野川の水が逆流して、流域の村々に多くの被害を出す川でした。そのため、流域の村々は新井郷川の改修を願いました。

1914(大正3)年に「新井郷川治水会」が、さらに1917年には「新井郷川水害予防組合」も設立されました。23年にわたって濁川村の村長を務めた近藤耕太などが改修工事の計画から完成まで係わり、流域の人々が安心して暮らせるよう力を尽くしました。

三軒屋公園にある新井郷川治水碑は、新井郷川分水路開削など一連の新井郷川改修工事の完成を記念して1937(昭和12)年に建てられた石碑です。



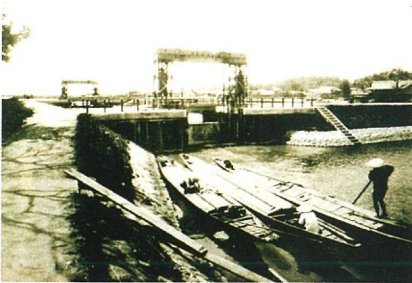
新井郷川治水碑

■ 大改修工事の遺産

三軒屋町にある新井郷川^{こうもん}閘門は、改修工事中の1931（昭和6）年に建てられたものです。

新潟^{くづつか}～葛塚^{つうせん}を結ぶ舟が、通船川・新井郷川を經由して物資や人を運ぶとき、この閘門を通りました。水位の異なる阿賀野川と新井郷川を舟が通るとき、この閘門で水面の高さを調節してから、通りました。

さらにこの閘門は、門を閉じることで、阿賀野川の水が新井郷川に逆流しないようにしたり、また、ほとんどの水が直接日本海へ流れるようにしたりする役割を持っていました。



完成当時の新井郷川閘門（名目所側から撮影）



現在の新井郷川閘門跡

■ 川のバイパス工事

葛塚地区でも、新井郷川の流路改修工事が行われ、1964（昭和39）年に河道が変わりました。三軒屋橋（嘉山6）^{さんげん やし かやま}付近から他門大橋（葛塚）^{たもん おおはし}付近まで蛇行していたものが、直線に改修されました。のちに、旧河道は埋め立てられ、道路や住宅となり、街のようすも様変わりしました。川岸公園（嘉山2）は旧河道に整備された公園です。



1964（昭和39）年頃の改修工事のようす

■ 濁川から、きれいな新井郷川へ

近年、新井郷川クリーン作戦が行われています。これは「新井郷川の環境をよくする会」が川の水質と環境をよくしようと始めました。水辺の環境づくりが、今、地域で注目されています。



2008（平成20）年6月に行われた新井郷川クリーン作戦